

柳田・石橋の農政論と農業改革

キヤノングローバル戦略研究所研究主幹
山下 山 下 一 仁

- *日本は今も昔も小農主義
- *小農主義、農本主義、国家主義
- *地主階級の影響力と思惑
- *いまだにある農業に対する誤解
- *矛盾だらけの農水省の政策
- *土地の生産性は国によって様々
- *世界は農産物貿易に積極的
- *日本農政の3悪人とは何か
- *日本は「瑞穂の国」ならぬ「パンの国」
- *まずやるべきは減反政策の廃止



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は2度目になりますが、山下さんに来ていただきました。農林水産省でGATTや、それからEU、その他海外の駐在をされ、経済産業研究所で研究員をされた後、現在はキヤノングローバル戦略研究所で研究主幹をされております。農業問題はなかなかわかりにくい世界でございますし、政治的なイシューも非常に多いわけでございますが、今日は農政についての本質的なお話を、少し歴史的な視点も踏まえていただけるといいでございます。それでは山下さん、よろしくお願いたします。（拍手）

日本は今も昔も小農主義

山下 山下でございます。よろしくお願いし

ます。

今日は2回目ということなんですけれども、今日は東洋経済の経済倶楽部ということなので石橋湛山の話もさせていただきたいなと思っております。資料はたくさんあるんですけども、要領よくやりたいなと思います。

今も昔も農業界の主流は小農主義の考え方なんです。小さい農家は貧しい、だから保護が必要だと。実は小農主義というのは戦前からあるんですけども、実は地主階級の主張だったわけです。地主階級というのは大規模に農地を所有しているから小農主義ではないんだらうと思われがちですが、実はそうではなかったということですね。それは後で詳しく説明させていただきます。